

本年度の研究会（研究発表・総会）は、1991年11月29日から30日にかけて2日間、別府市の大分県立生涯教育センターにおいて、26名の会員・非会員の参加のもとに行われた。別府での開催に当たっては竹村恵二氏をはじめ京都大学地球物理研究施設の方々に会場の世話を始め様々な面で大変お世話になった。研究会終了後、11月30日から12月1日にかけて初めての試みとして地質見学を行った。

研究会においては23の一般講演が行われた。今年は、次から次へと斬新な内容の発表がなされ、予定時間を大幅にオーバーして活発な討論が続いた。不幸にして出席できなかった方は、このニュースに載っている要旨をご覧いただければその雰囲気も想像して頂けるものと思います。また特別講演として、竹村恵二氏に別府－島原地溝帯を中心に別府周辺の地質について興味深い話をして頂いた。

11月29日の夕方、総会が開かれ、次のような話題提供・討論がなされた。

1) 次期の研究会役員に次の方々が選出された（任期2年）。

会長	雁 沢 好 博
委員	角 井 朝 昭
	大 平 寛 人
	本 多 照 幸
	田 上 高 広
	渡 辺 公 一 郎

2) 国内の研究用原子炉（京都大学・武蔵工業大学・立教大学）の現状と見通しについて西村進・本多照幸両氏などから報告があった。

3) 田上高広氏から今年も4月に開催される地球惑星関連学会合同大会において、年代関係の共通セッションがもたれるのでぜひ講演いただくようにと協力要請があった。

4) 昨年の研究会で1992年の地質学会で熱年代学のシンポジウムを開催してはどうかという提案があったが、諸般の事情で開催できなかった。今後近い内に開催できるよう、次期会長を先頭に引続き努力に務めることを確認した。

総会后別府市内において懇親会が持たれた。例により和気合々とまじめな話・xxxな話などで大いに盛り上がり、翌朝の様子から想像するに2次会・3次会へと深夜まで続いたようである。

地質見学には12名の参加があり、車3台に分乗して、渡辺公一郎氏の案内で行われた。11月30日の研究会終了後、久住にある九州大学地熱開発センターの研究所に向い一泊した後、12月1日にまず国内年代標準試料候補である渡神岳安山岩の見学を行い、併せて周辺の第四紀火砕岩類（同じく国内年代標準試料候補の大阪層群のピンクタフと同起源？）を観察した。渡神岳で解散後、有志は雲仙普現岳まわりで福岡に向かった。この見学会は渡辺公一郎氏をはじめ九州大学資源工学科の方々に全面的にお世話頂いた。

研究会参加者： 檀原 徹・雁沢好博・長谷義隆・長谷部徳子・本多照幸・伊藤久敏・岩野英樹・糟谷正雄・菊池正太郎・北田奈緒子・黒木宏治・ギェム カイ ヴ・松田高明・村松敏雄・西村 進・小倉直子・大平寛人・関根亮太・角井朝昭・田上高広・竹村恵二・竹内圭史・山田隆二・山下透・由佐悠紀・渡辺公一郎・弘原海清・